

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念が作成されており、入居者一人ひとりに合わせたケアを心がけ、それに基づいたサービスを提供しています。	
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念の意味を理解し、日々の生活に反映させています。	
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	玄関・事務室に理念を掲示し、入居時には本人・家族に説明をしています。	○  地域には積極的な取り組みは行われていない為、理解していただけるよう取組んでいきたいです。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	近隣の方々と挨拶をしたり、気軽に立ち寄ってもらえるように心がけてはいるが、まだ十分とはいえない状態と思われる。 認知症に関する相談・実習生やインターシップの受け入れなど、専門性や実践研修を地域に還元する取り組みを行っている。	○  町内会や自治会などに働きかけ、事業所を理解してもらえよう努めています。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
6	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	○	市の担当者へ相談中であり、指示を仰ぎながら早急に進めていきます。
7	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	○	その人の状況に合ったものを適宜使えるように勉強を継続して行きます。
9	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている</p>	○	各職員の捕らえ方の違いがある為、気持ちと同じ方向を向く為に話し合いを継続して行きます。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
10	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居・退去にあたっての説明に、質問等があった際、利用者・家族へ必要・状況に応じた説明を行い、納得していただいています。	
11	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者同士の会話や、さりげない声掛け・話し合いにて、本人の意見・不満・考え方を察知し、職員間で話し合いの場を設けています。	○  利用者の感情の動向を更に察知できるようにし、苦情等の問題について、職員間での話し合いの場を継続して設けて行きます。
12	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の面会の際日々の暮らしや健康状態（受診状況）等をその都度状況に応じて報告しています。	
13	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関への苦情処理箱の設置済みであり、不満・苦情等はいつでも受け付ける用意があります。	○  不満・苦情等あった際は、話し合いの場を設け速やかに対処し日々のケアサービスに反映させていきます。
14	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の職員会議や、必要に応じてその都度話し合いの場を設け反映しています。	○  継続して、意見・提案を聞く機会を設け反映させていきます。
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者本意の生活が支援できる人員の確保はできている。又、職員の急用等があった際は、代りの職員が対応できるようになっています。	○  継続して、利用者の生活に支障がないよう関わりを大切にしています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者の心身を考慮し、適任した職員の配置を心がけて十分に説明・理解を得ています。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
17	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の質の確保・スキルアップを図るため、年5回の外部研修計画を立て実施中である。又、研修参加者は職員会議にて報告をし、皆で話し合いをしています。	○	継続していきます。
18	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	困難事例等発生した際、他事業所との連絡体制があり、個人情報には十分配慮し、お互い相談をしています。	○	大切なネットワークであり、継続していきます。
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	スーパービジョンや職員同士のコミュニケーションが図られているものの、事業所が狭いため、職員の休憩時間くつろげるスペースがないと思われま。	○	限られたスペースでの工夫をしていきます。
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は現場の状況・職員の日々の努力・勤務状況を把握しており、各職員に合った向上心を見つけ出せるように環境を配慮しています。	○	継続していきます。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談があった際、相談者・利用者の状況を考慮し、その状態に合ったアドバイスをし、心身ともに安心できるよう全力でネットワークを利用し最善を尽くしています。	○  信頼関係で成り立つと思いますので継続して全力を尽くしていきます。
22	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者・家族の現状を把握し、希望に沿ったサービスに繋がるように、必要に応じて対応し努めています。	○  市の担当者・包括支援センター・各機関等の連絡調整を密にしています。
23	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の性格・生活習慣・要望等を把握し、使い慣れた品々を使用していただき、安心してくつろげる雰囲気を提供できるよう家族へ協力を得ながら対応をしています。	○  家族との連絡を密にし、状況に合った対応を継続します。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護をさせていただく精神を心に思い、利用者との過ごす時間を一緒にすることで、その人本来の性格等が見えてくることがあり、勉強させられることばかりです。	○  状況は常に変化しますので、観察力を向上させて「気づき」を意識していきます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の各家族にもいろいろ事情等あり、その状況に応じて、できる範囲で協力をお願いしています。	○	継続して、状況に応じて柔軟な姿勢で対応していきます。
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	他人だからある溝・家族だからある溝を考慮し、無理なお願い等はせず、できる範囲でお互いに支援をしていただいています。	○	〃
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	基本的に誰でも面会はできます。又、状況に応じてプライバシーを考慮して自室等で会話をしていただいています。又、さりげなく面会をお願いをしています。	○	〃
28	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の性格等を把握し、利用者同士の係りを観察をし、時には仲裁に入ったりと状況に合わせて対応しています。	○	〃
29	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	自立となり自宅へ帰られた方と病院で行き会った際は近況・問題等を聞いたり、他事業所からの連絡が入った際は、状況に応じて電話・訪問にて問題の把握・解決策を職員・他事業所等と話し合いし対応しています。	○	〃

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活スタイルや生活環境があり、極力本人・家族の希望に添えるよう関係者等の協力を得て対応しています。	○
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調書からの把握や家族から聞いたり、日常会話から本人の精神的負担にならないよう、できる範囲で把握している。	○
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日常生活の観察から、利用者の生活リズムを把握しており、できない部分での支援を行い、心身的に負担にならないようにしています。	○
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	状況は常に変動したりすることがあり、利用者がその人らしく暮らせ続けることができるように、会議での意見交換や必要に応じてその都度話し合いの場を設け対応しています。	○
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	まずは、利用者本意であり、状況に合わせてその都度対応しています。又、緊急性なものなのか、そうでないものなのかを的確に判断し対応しています。	○

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況は、全職員が個人のケース録を記入し、共有されています。しかし、課題の優先現状を見極めるため、全部が全部介護計画の見直しとまでは至っていません。	○	課題等の捉え方や考え方・優先順位等の状況を職員全員で取組んでいきたいと思えます。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
36	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者等の要望にはグループホーム単独での対応に無理があり限界を感じる場合があります。	○	他事業所との密な連絡体制をとり、お互いに助け合い、利用者によりよいサービスの提供ができるようにしていきます。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
37	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員は一身上の都合にて活動ができない状態であり、必要に応じて各関係機関と連絡調整を行っています。又、ボランティアの要請があればいつでも対応しています。	○	積極的な働きかけが必要とされますので、頑張っていきます。
38	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	当事業所では無理が生じる際は市の担当者・地域等の専門員との相談にてよりよいサービスに繋がるように支援しています。	○	継続して、状況に応じて柔軟な姿勢で対応していきます。
39	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じて連絡調整を行っています。	○	〃



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望に沿って受診をしています。又、必要に応じていつでも医療機関とも連絡調整し受診・相談を行い医師の指示を仰ぎながら、必要に応じて検査等を行い、状況を把握しています。	○	〃
41	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医の数が少ない状態であり、安心して相談したり関係の築きに限界を感じています。又、できる範囲で情報交換を行い指示を仰ぎ対応しています。	○	〃
42	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師の常勤により専門性を発揮していただいています。	○	〃
43	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療機関・家族との連絡を密にし、方向性が決まり次第調整を行い対応できます。	○	〃
44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	専門職による見取りの指針の整備中であり、方針を決めている状態です。		医療機関・家族との連絡を密にし、本人・家族の意向をしっかり受け止め、全職員・関係機関と取組んでいきたいと思ひます。
45	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	専門職による見取りの指針が出来次第、全職員で話し合う必要があります。	○	全職員と話し合い、医療機関と連絡を密にし、本人・家族の意向を取り入れ取組んでいきたいと思ひます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移り先の不安等あった際、本人・家族・関係事業所等と必要に応じて話し合いの場を設け、少しでも安心できるように努めています。	○	継続して、状況に応じて柔軟な姿勢で対応していきます。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>				
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>				
47	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	その人の自尊心を考慮して対応し、個人情報の管理も考えて対応しています。	○	〃
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	その人に合わせた状況で、選択肢ができ、自分の希望に沿ったようにできる対応をしています。	○	〃
49	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者第一優先と考え、その人の状況に合わせて、利用者本意に過ごしていただき、見守り・観察をしっかりとし、できない事の支援をしています。	○	〃
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
50	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その人らしさを大切にいただき、できる限り希望に添い対応している。	○	〃

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段からの会話で、昔懐かしい食べ物や食べてみたい物を聞きながら、味付けを教えてもらったり、その人の状態に合わせて、料理の下準備・味付け・食器拭きを行っていただいています。	○	〃
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好調査表作成までは至っていないものの、普段からの会話で、昔懐かしい食べ物や食べてみたい物・飲んでみたい物を聞きながら食事提供等に反映させています。	○	〃
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	その人に合った対応とオムツ(各種機能・価格を考慮)を使用し支援をしています。	○	〃
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日と時間帯は決まっているものの、本人の希望や状態に応じて対応しています。	○	〃
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その日の状況に応じて声掛けをおこなったり、昼寝は寝過ぎることにより夜間の安眠に妨げないよう配慮しています。又、精神的なものについては専門医への相談を行い、指示を仰ぎ、対応して様子観察し状態を報告し支援をしています。	○	〃
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が昔行ってきたことや得意なことを行ってもらい、感謝の気持ちを伝えることで、本人も満足感がもてるようになっており、心身の負担にならないように配慮しています。	○	〃


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その人の能力に合わせて対応しており、自分で管理できない人は家族に同意を得た上で収支がいつでも分かるように管理をして、いつでも見てもらえる状態です。又、使い過ぎた場合、家族に連絡をし調整を行っています。	○	〃
58	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望時等、体調・天候を考慮し散歩や買い物・美容院等に一緒に行っています。	○	〃
59	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者又は家族からの外出・外泊希望はその都度対応し、必要に応じて服薬管理指導・心身状態や状況の報告も行っています。又、季節の観光等も楽しんでいただくためにドライブ・外食の計画を利用者の希望も取り入れて実施し支援しています。	○	〃
60	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	その人の希望があった際、状態に応じて適切な対応したり、判断が迷う際は状況に応じて家族等に確認し、精神的負担にならないように支援しています。	○	〃
61	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	深夜以外はいつでも気軽に面会できるようになっており、プライベートにも配慮し、家族の宿泊希望時は対応できるようにしている。	○	〃
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
62	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はもちろんのこと、精神的拘束をしないよう気がついた際いつでも話し合いの場を設け対応しています。	○	〃

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が日常的に出入りする場所は施錠していません。又、利用者の外出傾向を察知した際、職員と一緒に付き添いを行っています。	○	職員が気がつかず、利用者が外出した際に備えて、近隣からの協力が得られるよう交流を深めていきたいです。
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜間、職員は見守りやすい場所にて様子観察をしています。又、居室にて過ごされることが多い利用者に対しては、時間をおいて声掛けし様子観察をしています。		利用者のプライバシーを考慮し、利用者の安全確認を継続して取り組んでいきます。
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品は事務室又は施錠のかかる場所にて保管をしている。又、掃除の洗剤等は一つの保管場所にて管理し、洗濯洗剤は一つにまとめ洗濯機の陰に置いたり工夫をしています。	○	現在事故に繋がる事起きていませんが、今後起こる可能性も考えられるため、その都度対応策について検討する必要がある、話し合いの場を設けていきます。
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	会議の際、利用者の想定される事故等について全職員が情報を共有し、事故防止に取り組んでいます。又、事故やヒヤリハットの事についてはその都度全職員に周知できるよう常時確認できる場所に掲示等をおこなっています。		会議を開く事によって、利用者の情報を共有する事ができ、事故予防についても統一した対応が行えているので、今後も継続して取り組んでいきます。
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	管内消防署の救急救命士による指導で、年二回、救命救急訓練（心肺脳蘇生法）・応急手当等の訓練を行っています。		訓練を行う事で、初心に戻ることができ、気を引き締めて日々の仕事に取り組めるため、継続していきます。
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署員の指導を受け、年二回の消防訓練（日勤帯と夜勤帯を想定し）を行っています。又、記録に残し、後に職員と話し合いの場を設けています。	○	いざという時に備えての具体的な非難誘導策のマニュアル作成、及び災害時の対応について近隣等への確認・働きかけが必要と思われます。又災害発生時に備えての必要物品の確認と用意が必要と思われます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	病気等によるリスクについては、家族の方と話し合いの場を設けています。又、起こり得るリスクについて家族の方からも理解を得ており、利用者の状況に応じて見直し、対応策について話し合い、取り組んでいます。		起こり得るリスクに対して、家族の方からの理解を得て頂いていることは大きく、継続して利用者の状況を説明し、話し合いの場を設け、利用者 に合った生活を大切に、取り組んでいきます。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
70	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルサイン及び顔色・訴え等により、異常の早期発見に努めています。又、体調変化時は、情報を共有し、様子観察又は速やかに受診するという対応をおこなっています。		精神的な部分もあり、判断は難しいが、利用者の持病や留意事項を共有し把握できていると思われ、異常時・訴え時は記録を残し、継続して情報を共有し対応に取り組んでいきます。
71	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の内容は、処方箋内容を利用者ケースに付けており、常時確認でき把握できるようになっています。		内服薬は利用者へ手渡しする前再度確認し、服用の確認を行っています。又、内服薬変更時は全職員に情報を周知し、状態観察及び医師への報告を継続していきます。
72	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の及ぼす影響・原因について職員理解しています。又、自分で排泄を行えない利用者に対して、トイレ誘導をし、自然排便を目指し取り組んでいます。	○	便秘になりやすい利用者に対して、肛門刺激を行っているが、施行者が限られているため技術習得に向けて、全職員で取り組んでいきたいと思えます。
73	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	利用者の状況に応じて、毎食後洗面台へ歯ブラシ等をセッティングや義歯洗浄剤の使用等個別に応じた働きかけをおこなっています。又、嚥下できない利用者に対しては、毎食後義歯を外し、水を飲用していただき、口腔内の洗浄をおこなっています。		希望・必要に応じて、歯科受診をしています。又毎食後の口腔内の清潔については、強制するのではなく、今まで行っている一人ひとりに応じて支援及び見守り等で取り組んで対応継続していきます。
74	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	現在糖尿病を煩っている利用者が二名おり、エネルギー1,600calをめどにて対応しています。又、食事量・水分量を注意しなければいけない利用者に対して、表に記入したり記録に残し把握できるようになっています。		水分量の記入は、排泄と一緒に表で把握できるため、排泄に応じて水分補給の対応ができるので便利です。又、ごはん・おかずを上手くすくえない利用者に対して、すくいやすい食器にしたり、スプーンの持ち手を握りやすく工夫し、職員が寄り添ってさりげなく支援しているため、継続して対応していきます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	講習会に参加し、その資料を他職員も目を通したり、会議で報告をして、情報を共有しています。又、建物内に入った際は、手洗い・咳嗽を行っています。	○	インフルエンザ等のマニュアルがないため、当施設に合ったマニュアル作りが必要であり取組んでいきます。
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	夜勤帯で、まな板・台ふきをハイターで消毒をしています。又、食材はこまめに購入し、賞味期限にも注意しています。旬の食材を購入し、季節感を味わっています。	○	注意しなければならない事へのマニュアルや注意書きを貼り出す等の対応がなされていないため、見直し・作成及び改善策を練り出し取組んでいく必要があります。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	看板は温かみのある素材を使用し、玄関前には鉢植え等（冬季以外）があり、親しみやすいものとなっています。又、窓が大きく外から中の様子が見えるので、安心して入ることができるようになっています。	○	今は季節的に、クリスマス用の電飾（ガーデン用イルミネーション）で利用者や近隣の方々に喜んでもらえる様に工夫をしています。
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感に合った装飾を利用者と一緒に作成・飾りを楽しみ、テレビの音量は利用者が合わせてくれています。職員は足音・話し声は騒がしくなく、不快な音とならないよう配慮しています。又、職員も家庭的な雰囲気・空間づくりの工夫を心がけています。		共用の空間については、季節に応じた絵や工作を作成し貼り付けています。それが、コミュニケーションへのきっかけとなり、和やかな空間作りへと繋がっています。
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファや畳・掘りこたつがあり、気軽に団らんでできる空間があります。又、利用者が一人で新聞・雑誌等を読んだり、好きな時間に好きなところで（自室等）くつろげるようになっています。	○	利用者は個々に居心地のよい場所を確保しており、自分のスペースで過ごされています。又、ケース録の記入の際、利用者が席を譲ってくれたり、場所を移動してくれ、気を使ってくれているため、利用者の位置を把握し、配慮して取組んでいきます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	基本的には持ち物の制限はなく、利用者が愛用 していた物・使い慣れた物を配置・利用すること で安心感を得ているように思えますし、その人に 合った居室作りに努めています（家族に相談・お 願いをしたりと）。		利用者の愛用品が配置されていることで、自立 した生活に繋がっていると思います。又、今後も 利用者と相談しながら愛用品・使い慣れた物を利 用できるようにしていきたいです。
81	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	トイレ・洗濯場・風呂場は常時換気され、玄関 等必要に応じて消臭剤等の活用しています。又、 温度・湿度調整は利用者に合わせて、温度計・湿度 計をチェックし、利用者への声掛けで確認しなが ら調整をしています。		温度調整は、利用者一人ひとり違いがあり、そ の状況に配慮しておこなわれています。又、現在 暖房使用中にて加湿器を作動させ、空調に配慮し ています。入浴時は、脱衣場にもストーブをつけ 温度差に注意を払っています。
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	適所に手すりが設置され、移動・移乗時等ス ムーズにできるよう見守りやその人に合った支援 をしています。又、立ち上がる際、転倒の危険性 がある利用者に対しては、椅子の下にじゅうたん を貼り付ける等工夫し、スムーズにおこなえるよ うにしています。		廊下で歩行訓練ができ、手すりを用いて膝の屈 伸運動をするなど、活動の場として活用されて います。いずれも、職員がすぐ駆けつけられる範 囲で行われています。
83	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	適所に解かりやすい・見えやすいように表示 (乱雑にならないように配慮心がけています) し、混乱・場所間違いはみられていません。又、 利用者の居場所がそれぞれありマイペースですご されています。		その人の状況に合った設定（食事席・トイレ 等）を行なっています。
84	○建物の活用  建物を利用者が楽しんだり、活動できる ように活かしている	玄関先には植木鉢や敷地内にはミニ農園があ り、利用者が個々にできる範囲で（無理はしない よう見守り・声掛けおこなっています）、楽しん でいます。又、窓が大きく、誰が来たか分かるよ うになっており、家族・親戚・職員・新聞配達・ 業者等が来るのを楽しみにされています。	○	敷地内は砂利を敷かれており、転倒事故等の事 故防止のために、アスファルトにする等の整備が 必要であり、改善できるよう取組んでいきま す。

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



## V. サービスの成果に関する項目

項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input checked="" type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
職員は、生き活きと働けている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(新職員の感想)

入職して二ヶ月経ちました。以前、施設で働いていました。日々仕事をして、時間時間で仕事をするのではなく、利用者に対して今やらなくてはいけないという個別性を重視して取り組んでいることを実感しています。又、尿意を訴えることがきでない利用者に対しても日中できるだけトイレ誘導をし、自然排尿・排便を目指したり、食事面でもご飯をスムーズに食べれない場合でも、すぐにミキサー・きざみ食にするのではなく、主食だけお粥にしたり、副食は常食で対応し、だめだったら柔らかく調理してみたりと工夫し、それでもだめだったら噛みやすいよう細かくしたり、それでもだめだったらミキサーで対応したりと諦めずに立ち向かっている職場です。利用者のペースに合わせた生活リズムを大切に、アットホームな環境で利用者・職員とも笑いの絶えない職場です。利用者に対する接し方・声掛けでも思いやりを感じます。自分も自然にだせるよう、又今何を必要としているのかというアンテナをはりめぐらせ支援できるよう日々勉強中です。